

**「松戸市立博物館リニューアル
基本構想・基本計画」
事業評価報告書【令和6年度実績】
(案)**

松戸市立博物館

「松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画」事業評価報告書(案)

【令和6年度実績】

【はじめに】

当館は令和5年度策定のリニューアル基本構想・基本計画において当館が果たすべき3つの社会的使命と、それを達成するための5つの事業目標を掲げて運営しています。

この事業目標について令和6年度事業実績の達成状況を評価いたしました。

<計画体系図>

3つの使命	5つの事業目標	方針	具体的な取組
<p>◎松戸市立博物館は、松戸の3万の歴史と文化を研究し、その「知」の集積をもとに未来を展望するために誰もが活用できる歴史博物館をめざします。</p> <p>◎多くの市民が松戸の歴史と文化を楽しみながら価値を発見し、「ふるさと松戸」に対する愛着と誇りを育むことができる地域博物館をめざします。</p> <p>◎未来を担う子どもたちを育み、多くの人々をつなぎ、協力を推進し、「ひとづくり」に貢献できる文化交流の場をめざします。</p>	事業目標1 松戸ブランドの価値創出	(1)所蔵文化財の価値の発信	① 進化していく展示 ② 調査・研究対象の整理と作業の効率化 ③ 館蔵資料の履歴作成と合理的な活用
		(2)ICTによる文化財情報の整理・発信	① ICTを活用した迅速・広範な情報発信 ② 工夫を凝らしたアイテムの充実
	事業目標2 広域的な文化交流拠点の形成	(1)千駄堀地区文化交流拠点としての位置付け	① 1日中楽しめる空間創出 ② 市内外からの集客
		(2)観光拠点としての位置付け	① 文化財へのアクセシビリティ強化 ② まつどの歴史・文化の観光ルート ③ 松戸市戸定歴史館との連携
		(3)県西部の中核館としての位置付け	① 歴史・文化の拠点 ② つなぐ博物館
	事業目標3 新しいファン層の獲得	(1)子育て世代の博物館の利用支援	① 家族で楽しめるプログラム ② 楽しみながら学ぶ松戸の歴史
		(2)地域とつながる、市内地域の歴史的文化の発信	① 様々な団体への支援・協力 ② 地域活動団体などとの連携
		(3)学校教育施設などとの連携強化	① 各地域の歴史や文化を活かした小中学校との連携 ② 児童学部との連携 ③ 市内高校・大学との連携
	事業目標4 新たな展示空間の創設	(1)こどもミュージアムの整備	① 5つの柱に基づいたこどもミュージアムの整備 ② 4つの展示部門での構成
		(2)新しい発見や学びのための可変的な展示	① 可変性のある展示空間 ② 調査・研究成果をスピーディに公開する展示空間
		(3)ニーズに対応した展示空間	① 松戸市立博物館でしか味わえない展示空間
	事業目標5 施設の長寿命化	(1)インクルーシブデザインの導入	① 快適に過ごせる施設の整備
		(2)施設の老朽化対策の推進	① 老朽化施設の改修 ② 館蔵資料の適切な管理
		(3)アクセスの改善	① 駐車場の効率的な活用 ② スムーズなアクセス

【評価の方法】

当館による自己評価と、松戸市立博物館協議会による外部評価を行います。

外部評価の中央値を以て総合評価といたします。

- ・自己評価は、目標の達成状況について定性的評価、及び定量的評価を行います。
- ・外部評価は、自己評価結果を客観的に検証し、今後の在り方について助言します。

【評価の結果】

- A・・・所期の目標を上回っている。
- B・・・所期の目標を達成している。
- C・・・所期の目標を下回っており、改善を要する。

※網掛け=「内部評価表」の重点項目

5つの事業目標	方針	具体的な取組	より詳細な取組	第1次中期期間(R5～R7)						外部評価A	外部評価B	外部評価C
				R5 2023年		R6 2024年		R7 2025年				
				(準備期間)	実績値	単年度指標	実績値	単年度指標	実績値			
最新の研究成果を反映したりリニューアルを進めるとともに、より一層地域に根差した活動を展開し、「誰もが」「何度も」訪れたい博物館を目指します。 ※中期期間ごとに右記の方針で取り組みを進めていきます。				展示技術の情報収集・開発を進めつつ、ヒアリングを通じて幅広い立場の方々の声を反映しながら、展示基本・実施設計を完了します。						合計23	合計20	合計2
松戸ブランドの価値創出 事業目標1	(1)所蔵文化財の価値の発信	①進化していく展示 展示やイベントにより興味を持って観覧・参加できるよう、広報から展示・解説手法に至るまで、全般を逐次総括・反省しながら拡充・変更することで発信力を強化します。	効果的な展示技術の情報収集・開発・蓄積	—	1件	9件	16件	9件	7	2	0	
		②調査・研究対象の整理と作業の効率化 博物館活動の根幹である資料の調査・研究の在り方について、短期的業務と中長期的業務を弁別・整理して館内で情報共有する等の見直しを行い、効率化と集中化を図ります。	写真・映像資料および調査記録などのデジタル化・データベース登録	—	—	資料総数および作業量の把握	・広報課旧蔵写真の整理作業および総数把握(約300,000コマ)。 ・データベースに約11200件の考古資料情報を新規登録 ・市内民俗調査写真記録カードのデジタル化	資料総数および作業量の把握				
		③館蔵資料の履歴作成と合理的な活用 資料の保存と活用のバランスを正確に認識しながら、調査・展示・煇蒸・貸し出し等、一連の事業を実施します。	※事業目標1-(2)-②「デジタルミュージアムの充足」と同一の取組を実施	—	—	—	—	—				
	(2)ICTによる文化財情報の整理・発信	①ICTを活用した迅速・広範な情報発信 紙媒体だけでなくHPやSNSなどの活用により、市内・市外、更に世界に向けて松戸市立博物館の情報発信を行います。	SNS(X・Facebook・Instagram等)での情報発信(展示・イベント案内、学芸員による資料紹介など)	—	102件 (X:50件 Instagram:36件 Facebook:16件)	60件	121件 (X:65件Instagram:44件Facebook:9件 公式LINE:3件)	60件				
		②工夫を凝らしたアイテムの充実 デジタルミュージアムの開設、オンライン蔵書検索、展示解説動画、ARコンテンツ、VRコンテンツなど、アイテムや表現方法に工夫を加えながら、更なる利便性とわかりやすさ、楽しさの充実を図り、ネットワーク環境を活用した取り組みを行います。	ICTを効果的に利用する体制の確立	—	・I.B.MUSEUM新規登録件数:約11200件 ・館蔵資料35件の3次元計測および3Dモデルの公開。 ・古文書Excel目録の作成	展示計画策定(常設・こどもM)	・I.B.MUSEUM新規登録件数:約9100件 ・資料約200件の3次元計測および3Dモデルの公開 ・古文書Excel目録の作成	150件				
				—	・3次元計測用機器及びソフトウェアの購入。 ・館蔵資料35点の3次元計測及び3Dモデルの公開。 ・当館蔵書のオンライン検索を充実化。	展示計画策定(常設・こどもM)	・展示計画策定 ・館蔵資料約40点の3次元計測および3Dモデル公開 ・企画展に伴う借用資料約160点の3次元計測および3Dモデル公開(会期中限定) ・当館蔵書のオンライン検索を充実化。	展示基本設計実施設計(常設・こどもM)				
広域的な事業文化交流拠点の形成	(1)千駄堀地区文化交流拠点としての位置付け	① 1日中楽しめる空間創出 誰もがみんな一日中楽しみながら、音楽・芸術、自然、歴史・文化を満喫して過ごせるような、各施設を連関させる体制の整備を強化し、恒常的な施設の相互利用の活性化と認知度を向上させます。 ② 市内外からの集客 多岐に亘る連携イベントを企画し、市内・外からの集客と新規利用者を獲得します。	諸団体とのコラボイベントの企画・実施(博物館・21世紀の森と広場・森のホール21の連携イベントなど)	—	3件	3件	4件	3件	2	6	1	
	(2)観光拠点としての位置づけ	① 文化財へのアクセシビリティ強化 博物館の展示のみで完結するのではなく、常設展示や各種展示会の見学をきっかけとし、そこから利用者がさらに歴史・文化への興味・関心を高め、市内の史跡等を散策したりできるよう、文化財へのアクセシビリティを強化します。	・常設展示等における市内文化財の情報発信(デジタルコンテンツの制作など)。 ・休館中のレファレンス機能の維持。	—	・市内の実地踏査(旧松戸・小金宿) ・市内歴史資料の所在調査(松戸青木源内家、中部・小金・高木小学校など)	市内文化財の情報収集・調査	・市内の実地踏査(大谷口、金ケ作、五香六美) ・市内歴史資料の所在調査(千駄堀安藤家、大谷口大熊家) ・常盤平団地自治会所蔵資料の調査 ・市内各神社の行事等の民俗調査	・展示基本設計・実施設計 ・休館時レファレンス方法の検討				

※網掛け＝「内部評価表」の重点項目

5つの事業目標	方針	具体的な取組	より詳細な取組	第1次中期期間(R5～R7)						外部評価A	外部評価B	外部評価C
				R5 2023年		R6 2024年		R7 2025年				
				(準備期間)	実績値	単年度指標	実績値	単年度指標	実績値			
最新の研究成果を反映したりリニューアルを進めるとともに、より一層地域に根差した活動を展開し、「誰もが」「何度も」訪れたくなる博物館を目指します。 ※中期期間ごとに右記の方針で取り組みを進めていきます。				展示技術の情報収集・開発を進めつつ、ヒアリングを通じて幅広い立場の方々の声を反映しながら、展示基本・実施設計を完了します。						合計23	合計20	合計2
広域的な文化 事業目標 2 拠点の形成	(2)観光拠点としての位置づけ	② まつどの歴史・文化の観光ルート 観光スポットとして「観光ルート」「歴史の道」の散策を推奨し、歴史・文化を体感する楽しさを多角的な視点から市内外に発信します。同時に、郷土の歴史・文化に魅力を感じ、誇りが持てるように市全体のなかで連携を強化します。	市内文化財の情報収集・調査に基づく「歴史の道」整備	—	・市内の実地踏査(旧松戸・小金宿) ・市内歴史資料の所在調査(松戸青木源内家、中部・小金・高木小学校など)	市内文化財の情報収集・調査	・市内の実地踏査(千駄堀、大谷口、金ケ作、五香六実) ・市内歴史資料の所在調査(千駄堀安蒜家、大谷口大熊家など) ・市内各神社の行事等の民俗調査	市内文化財の情報収集・調査		(2)	(6)	(1)
		③ 松戸市戸定歴史館との連携 連携展示や市内文化施設各種イベント等を多く企画し、歴史・文化を通してつながる街の魅力を発信します。	戸定歴史館との連携	—	企画展にて写真資料を借用	連携特別展の準備	R7連携展示に向けた共同準備の実施	連携特別展の実施				
	(3)県西部の中核館としての位置づけ	① 歴史・文化の拠点 東京に隣接する好立地に加え、周辺博物館と比較しても、充実した規模・内容を誇る当館の長所を活かし、歴史・文化に関する情報発信の拠点としての事業を展開します。	周辺博物館との継続的な連携(資料貸借、情報収集・提供、共催事業など)	—	5件	6件	6件	6件				
		② つなぐ博物館 人類史的な視野による調査研究を行ない、その成果を基礎とした企画展等の展覧会、普及活動を展開することにより、松戸を広い視野から捉え直し、各地域をつなぐとともに、さらには人類の過去・現在・未来をも結びつける視点とその意義を発信します。	公開承認施設認定による重要文化財の展示促進	—	空調設備改修設計を完了	—	空調設備改修工事を発注	空調更新工事				
新しいファン層の獲得 事業目標3	(1)子育て世代の博物館の利用支援	①家族で楽しめるプログラム 家族で気軽に利用できるプログラムやイベントを常時開催します。	リニューアル後に実施する体験プログラムの開発	—	・『「こどもミュージアム」展示開発製作途中報告書』刊行 ・プレイルームイベントの新規開催	プログラムの検討・試行	・こどもミュージアム(リニューアル事業)における体験アイテム・キットの検討 ・企画展に伴い3Dプリンタを活用した新規プログラム2件を実施 ・プレイルームイベントの定期開催	プログラムの検討・試行		4	4	1
		②楽しみながら学ぶ松戸の歴史 常設展示の子ども向けワークシートで、歴史を学習していない子供にも、松戸の歴史を楽しみながら学べる機会を提供します。	こどもミュージアム用体験シートの開発	—	(取り組みなし)	体験シートの検討	・こどもミュージアム用の体験シート「たんけんてちょう」の構成・内容を検討	体験シートの検討				
	(2)地域とつながる市内地域の歴史的文化の発信	①様々な団体への支援・協力 市内のさまざまな団体と連携して共催事業等を実施するだけでなく、活動を支援できるよう助言・協力します。	新規連携団体の開拓	—	1団体	—	1団体	3団体				
		②地域活動団体などとの連携 地域活動団体や町会・自治会の学習活動の取り組みをつなぎ、博物館を核とした連携が深まる仕組みを作ります。	地域活動団体などへの支援活動および情報交換(パートナー講座含む)の促進	—	3件	6件	7件	6件				
	(3)学校教育施設などとの連携強化	①各地域の歴史や文化を活かした小中学校との連携 松戸市内各地域の特徴ある歴史や文化を児童が学習できるよう、小中学校と連携したカリキュラム作りを進めます。また、出前授業などのアウトリーチ活動へ活かせます。	博物館を活用したカリキュラム開発	—	「博学連携展示 松戸探検 100年前からのくらしのうづりかわり」の開催	博学連携展の改良	博学連携展にて「米作り体験」展示を充実化	カリキュラムの検討・作成				
		②児童学部との連携 聖徳大学教育学部児童学科との連携を進め、それぞれの学習課題を習得し、館内外の事業に反映させます。	児童学の視点を活かしたこどもミュージアムの運用	—	—	—	—	—				
③市内高校・大学との連携 小中学校だけでなく、高校・大学との連携によりこれまで進めてきた博学連携プログラムを強化します。		・高校生向けキャリア教育プログラムの開発 ・大学生向けプログラム(実習、団体見学など)の充実	—	・博物館実習の受入 ・大学ゼミの団体見学受入(1件)	・ニーズ調査 ・インターン等の受入	・県立松戸南高校インターン受入 ・県立小金高校インターン受入(新規) ・博物館実習の受入	・ニーズ調査 ・インターン等の受入					

※網掛け=「内部評価表」の重点項目

5つの事業目標	方針	具体的な取組	より詳細な取組	第1次中期期間(R5~R7)						外部評価A	外部評価B	外部評価C
				R5 2023年		R6 2024年		R7 2025年				
				(準備期間)	実績値	単年度指標	実績値	単年度指標	実績値			
最新の研究成果を反映したりリニューアルを進めるとともに、より一層地域に根差した活動を展開し、「誰もが」「何度も」訪れたい博物館を目指します。 ※中期期間ごとに右記の方針で取り組みを進めていきます。				展示技術の情報収集・開発を進めつつ、ヒアリングを通じて幅広い立場の方々の声を反映しながら、展示基本・実施設計を完了します。						合計23	合計20	合計2
新たな展示空間の創設 事業目標4	(1)こどもミュージアムの整備	① 5つの柱に基づき、こどもミュージアムを整備 (1) 博物館と最初に出会う場所 (2) 家族で一緒に楽しめる体験プログラムの提案 (3) こどもたちの自主性を重視する歴史体験 (4) 公園にある博物館の特性を活かした活動 (5) 人々の交流が生まれる広場 ② 4つの展示部門での構成 「こどもミュージアム」は、「やってみよう」「たんけんしてみよう」「しらべてみよう」「みんなで作ろう」の4つで構成され、各展示部門には松戸の歴史や文化にアプローチする多彩なプログラムを用意して、常に新たな歴史体験ができます。この4つの展示部門は連関性を持ち、こどもたちが自らの興味に応じて自発的で主体的な学びを深められるプログラムの開発を目指します。	こどもミュージアムの整備	—	『「こどもミュージアム」展示開発製作途中報告書』刊行	展示計画策定 (常設・こどもM)	・展示計画策定 ・ワーキンググループを中心としたこどもミュージアムの体験キット・アイテムの検討 ・先進事例の視察	展示基本設計 実施設計 (常設・こどもM)	7	2	0	
	(2)新しい発見や学びのための可変的な展示	①可変性のある展示空間 常設展示を見直し、現在の主題展示室を改変し、新たに可変性をもつ展示空間を創設します。新しく収集した資料の即時的な公開、研究成果をもとにした新しい情報の発信、特定の展覧会テーマに合わせた収集資料等の紹介などの展示を展開します。 ②調査・研究成果をスピーディに披露する展示空間 総合展示室内にも可変性をもつ展示ケース等を増設し、通史展示における各時代の新たな研究成果の発信や、関連する収集資料を公開し、また、定期的な入れ替えなどを行いません。	・常設展示のリニューアルにともなう多目的展示室の新設と活用。 ・研究成果を即時発表するための什器選定とリニューアル後の活用 ・インクルーシブの視点を踏まえた展示空間の創出。	—	リニューアル懇談会の設置・開催	・展示計画策定 (常設・こどもM) ・インクルーシブ関係のヒアリング	・展示計画策定 ・リニューアル懇談会の設置・開催 ・市内の諸団体へ各種ヒアリングを実施	展示基本設計 実施設計 (常設・こどもM)				
	(3)ニーズに対応した展示空間	①松戸市立博物館でしか味わえない展示空間 ・展示室の照明を明るくし、展示資料や模型をよく観察できるようにします。 ・車いす利用者が見やすいように、展示台ケースの形状を工夫します。 ・展示資料や模型について、詳しい情報・解説やイラスト・写真等を用いたわかりやすい説明を付け加えます。展示室内でQRコード等を用いた情報発信を行ない、見学者の興味・関心に応じて学びを深められるような工夫を凝らします。		—								
施設事業の目標寿命5命 目長5命	(1)インクルーシブデザインの導入	①快適に過ごせる施設の整備 性・国籍・年齢・障害の有無などに係わらず、誰もがストレスなく立ち寄り、展示を観覧し、事業に参加できる空間を構成します。	インクルーシブデザインの導入(案内の多言語化、音声ガイドの導入、パンフレットなどの点字翻訳、休憩コーナーの検討・導入など)	—	—	課内検討会・関係団体へのヒアリングの開催	・展示業者とのインクルーシブ現地確認調査 ・インクルーシブ関係ヒアリングの実施	展示基本設計 実施設計 (常設・こどもM)	3	6	0	
	(2)施設の老朽化対策の推進	①老朽化施設の改修 博物館は開館後28年以上経過し、年数とともに建物の老朽化が進行しており、安全面、機能面で様々な不具合が発生しています。今後、施設老朽化の進行状況に応じて、建築、電気、給排水、空調設備などの修繕工事を行います。また、地震、水害などの災害時に備えた建物の機能強化を図ります。 ②館蔵資料の適切な管理 国の重要文化財など貴重な歴史資料を保管している重要な機能を担う収蔵庫の適正な保管環境の整備を図ります。	吊り天井改修 設備の更新 照明器具更新 企画展示室改修	—	空調設備改修設計を完了	・消火設備更新 ・収蔵庫除湿器修繕	・ハロンガスを交換 ・第2収蔵庫の除湿器を修繕 ・空調設備改修工事を発注	・先行事例の調査 ・展示基本設計 実施設計 (常設・こどもM)				
	(3)アクセスの改善	①駐車場の効率的な活用 利用者の利便性向上のため、21世紀の森と広場駐車場の有効活用など駐車場環境の整備を図っていきます。 ②スムーズなアクセス 主要駅(八柱駅、新八柱駅、新松戸駅)から博物館までの適切な誘導の看板や案内板の充実を図ります。	駐車場から博物館への誘導を効率的に行い、駐車場をPRの場とする。	—	—	中央口地下通路懸垂幕設置	中央口地下通路に懸垂幕設置	・既設案内板の調査、更新、撤去、新規設置検討 ・予算要求(休館案内)				
			博物館周辺案内の充実	—	—	中央口地下通路懸垂幕設置	・中央口地下通路展示の更新 ・中央口地下通路に懸垂幕設置	・既設案内板の調査、更新、撤去、新規設置検討				

【外部評価結果と今後の対応】

事業目標-1 広報戦略 松戸ブランドの価値創出		総合評価 A
<p>これまで蓄積してきた研究結果や貴重な文化財など、松戸市立博物館の価値を強力にアピールし、博物館の認知度アップを目指します。</p>		
評価数	外部評価の概要	
A	7	<p>【評価点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3DやIT技術を活用した展示や資料公開がなされている。QRコードを読み込み、どこでも資料をより詳しく調べたりできる点も、とても良い。 ・SNSでの情報発信についても予定数の倍以上の発信ができ、多くの情報発信ができたことと思われ、博物館として、良い広報戦略が進められている。 ・先進事例を視察し、常設展示手法や体験コンテンツに関する知見を蓄積した。 <p>【課題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々進化する SNS での発信を、もう少し有効活用できると良い。(例として、映画やドラマで話題の事柄とリンクさせるなど) ・博物館での重要な仕事のひとつに収集資料や二次資料のデジタル化やデータベース化があるが、その到達目標が明示されていないため、抽象的な評価になっていることは否めない。
B	2	
C	0	
今後の対応		
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSでの発信については、多くの情報発信がなされて評価を得ることができた。今後は世情との関連を持たせる等、お客様に少しでも興味を持っていただけるように情報発信する。 ・ICTや3D技術を活用した展示については3Dモデル展示資料の作成・公開やQRコードを利用した閲覧などが一定の評価を受けた一方で、博物館における「デジタル化」と「データベース化」の到達目標が明示されていないという指摘があった。当館としては原則、全所蔵資料の画像公開を目標として事業執行していく。 		

事業目標-2 エリア戦略 広域的な文化交流拠点の形成		総合評価 B
<p>松戸市立博物館は、千駄堀エリアの文化環境や自然環境を生かし、周辺施設との連携を強化し、市民のための文化交流拠点をつくりあげます。</p>		
評価数	外部評価の概要	
A	2	<p>【評価点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内文化財の調査が行われていること、戸定歴史館や聖徳大学短期大学部のような近隣施設と連携が行われていることがとても良い。 ・継続的に歴史資料の所在調査に当たっている点、民俗調査の着手など、目標の実現に一定の成果を上げた点は評価できる。 <p>【課題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の実地調査などの結果として、その活用法がはっきり見えてこないため、今後どのようにしていくのか分かれると良い。 ・博物館が「松戸市文化財保存活用地域計画」における拠点施設となっていることが、現状では十分に考慮されていない。 ・民俗や歴史資料の調査に十分な時間を割くことができるようにしてもらいたい。
B	6	
C	1	
今後の対応		
<ul style="list-style-type: none"> ・博物館が「松戸市文化財保存活用地域計画」における拠点施設となっている点について再確認し、第1次中期計画の総括にむけ文化財保存活用課と協議を行っていく。 ・民俗、歴史資料の調査時間を確保していく。 		

事業目標-3 ターゲット戦略 新しいファン層の獲得		総合評価 B
<p>松戸市立博物館は、家族で楽しめて集える博物館をめざし、新規利用者の開拓に努め、共に博物館を盛りあげていく仲間づくりを推進します。</p>		
評価数	外部評価の概要	
A	4	<p>【評価点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族で楽しめるプログラムの開発、また、楽しみながら松戸の歴史を学べる体験シートの開発に取り組む姿勢はとても評価できる。今後、そのつながりをうまく生かして集客増やイベントの開催につなげられればよい。 ・各種のニーズに応じた様々な講座・講演会等が展開されている。こども体験学習やプレイルームの取り組みも高く評価できる。
B	4	<p>【課題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生や大学生向けプログラムの開発など、インターンの受け入れだけでなく、もう少し企画や連携も考えてほしい。
C	1	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に対しての出前講座の他に、保護者向けの講座等をお願いしたい。 ・「地域総がかり」を前提に策定された「松戸市文化財保存活用地域計画」には、市内のさまざまな歴史文化関係団体が記載されているが、「新規連携団体の開拓」「地域活動団体などへの支援活動および情報交換」という取組において、各団体との連携や検討が充分になされていない。
今後の対応		
<ul style="list-style-type: none"> ・家族で楽しめるプログラムの開発や、松戸の歴史を学べる体験シートの開発等家族向けプログラムの開発について評価された一方、高校生、大学生向けプログラムをもう少し工夫すべき、との声が多かった。今後は高校生、大学生との連携プログラムについて相手先の選定も含め、検討していく。 ・児童に対しての出前講座の他に、保護者向けプログラム等、出前講座の充実を図る。 ・市内の各地域で活動している郷土芸能団体と新たに繋がりを持ち、郷土文化として記録化に努め、また、市で所有している情報を伝達することを始めている。今後は各団体で求めている要望を把握し、対応していくことを検討していく。 		

事業目標-4 展示戦略 新たな展示空間の創設		総合評価 A
<p>こどもも大人も松戸の歴史と文化を楽しく学ぶことができる「こどもミュージアム」を整備します。また、常設展示全体の充実も図ります。</p>		
評価数	外部評価の概要	
A	7	<p>【評価点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもミュージアムの整備や常設展リニューアルについてインクルーシブの視点から、外部有識者からの意見聴取や先進事例の視察・検討に加え、様々な団体からヒアリングを行ったことは高く評価できる。
B	2	<ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラムが豊富で、児童が主体的に学び、理解を深めることができた。今後も楽しく学べる体験プログラムの開発をお願いします。
C	0	<p>【課題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムシアターとキッズシアターの平均利用者数が少ないので、内容を検討してほしい。 ・各種ヒアリング内容を設計へ反映させてほしい。
今後の対応		
<ul style="list-style-type: none"> ・こどもミュージアムの整備や常設展リニューアルについて、インクルーシブの視点の重要性・外部有識者からの意見聴取・先進事例の視察・検討に加え、さらに市内の関係団体から包括的な意見聴取が実施できたことが高い評価を得た。これらを今後の展示リニューアルに反映していく。 ・ミュージアムシアターとキッズシアターの有効活用について検討していく。 		

事業目標-5 施設戦略 施設の長寿命化		総合評価 B
多様な利用者に対応できるよう施設の充実を図るとともに、今後も持続可能な博物館活動を展開できるよう施設・設備の長寿命化を図ります。		
評価数		外部評価の概要
A	3	【評価点】 ・施設の充実や施設・設備の長寿命化についての情報収集は充分に行われていると評価する。 ・博物館と展示業者によるインクルーシブ対応の現地確認調査を実施し、多様な利用者の視認性や利便性の向上を検討するなど、インクルーシブデザインの導入に向けた知見を深めた。 【課題点】 ・インクルーシブの視点は重要なので、誰もが利用できる博物館であるよう期待する。 ・老朽化対策については、劣化箇所の把握をしてほしい。施設を定期的にメンテナンスしてほしい。アクセスについては、都市部でさえ、バスの本数が減らされ始めているので、徒歩での案内板等の充実を図るべきである。
B	6	
C	0	
今後の対応		
<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブデザインの視点は重要であり、引き続き館内全体で意識と知識を共有し、リニューアル基本構想・基本計画に反映していく。 ・施設の充実、長寿命化のために、老朽化対策として総体的な劣化度調査を行う。 ・アクセスについては、徒歩や公共交通機関・自家用車利用の方々に、分かり易い案内板の設置を目指す。 		

【終わりに】

令和6年度実績事業評価について、委員の皆様からはより実践的な外部評価をいただくことができました。これらを基に必要に応じて内部評価項目、評価指数の検討を行い、今後のリニューアルを見据え、積極的な事業運営に反映してまいります。

【参考：外部評価コメント】

<p>事業目標-1 広報戦略 松戸ブランドの価値創出</p>	<p>総合評価 A</p>
<p>これまで蓄積してきた研究結果や貴重な文化財など、松戸市立博物館の価値を強力にアピールし、博物館の認知度アップを目指します。</p>	
<p style="text-align: center;">外部評価コメント</p>	
<p>・3D技術を活用した展示がされている。実物を見られていないことが残念。先進事例とは、どのようなものを指すのか気になる。ICTを利用し、所蔵・展示されているものが見られると、とても良い。充実されていることも素晴らしい。</p> <p>・企画展等において、3Dプリンタで来館者が、土器の様子を立体的に感じることができたり、QRコードを読み込み、どこでも資料をより詳しく調べたりできる点が、とても良い。小学校でも、歴史の最初の授業で縄文時代を学習するが、教室で調べ学習ができ、ICT機器を活用しての学習に効果的であった。</p> <p>・単年度指標に対する取組が大きく上回り、評価できる。日々進化する SNS での発信を、もう少し有効活用できると良い。(例として、映画やドラマで話題の事柄とリンクさせるなど)</p> <p>・松戸のブランド発信策として、資料展に3Dモデル化を取り入れるなど新たな展示方法に取り組み、また考古資料の3Dモデル公開など成果は大きい。</p> <p>・近年の3D技術をもとにした新たな取り組みを展示に生かしている。また、体験学習への取組として3Dプリンタを利用したものを積極的に採用している。</p> <p>・「松戸ブランドの価値創出」に向けて、展示技術の向上や情報収集に注力した。企画展「異形土器」では3Dモデルの作成・公開や3Dプリンタによるミニチュア作成を実施し、展示の魅力を高め、ワークショップ等で活用した。また沖縄県立博物館・美術館など13か所の先進事例を視察し、常設展示手法や体験コンテンツに関する知見を蓄積した。さらに、ICTの活用も進み、展示計画策定や資料3Dモデルの公開、蔵書オンライン検索の充実を図った。これらの取り組みにより、当初目標を上回る成果を得た。今後は歴史・民俗部門における展示手法の実践と、蓄積した知見のリニューアル設計への反映が課題となる。</p> <p>・内部評価コメントの「全体としての指標を超える成果」が何を指しているのかが読み取れない。「長期的なICT利活用に一定の道筋を立てることができた」点は評価できるが、博物館における「デジタル化」と「データベース化」の到達目標が明示されていないため、抽象的な評価になっていることは否めない。</p> <p>・館蔵資料の三次元測定、展示資料の3Dモデルの作成・公開、QRコードを利用した閲覧といった新しい展示技術に取り組み、目標に対し着実に成果を上げた。今後の資料の公開や展示に向けての展開が期待できる。なお、もっと博物館の研究機能の紹介を充実させても良いのではないかと。</p> <p>・博物館での重要な仕事のひとつに収蔵資料や二次資料のデジタル化やデータベース化がある。ただ、この業務は、裏方としての業務となるため、通常は展示作業や調査研究に追われ、なかなか進まないことが多々ある。そのような中でも市役所の広報課で所蔵していた旧蔵写真の整理や考古資料の登録・民俗調査カードのデジタル化等を指標以上に進められたのはとても評価できる。また、SNSでの情報発信についても予定数の倍以上の発信ができ、多くの情報発信ができたことと思われ、博物館として、良い広報戦略が進められていると考える。</p>	
<p>事業目標-2 エリア戦略 広域的な文化交流拠点の形成</p>	<p>総合評価 B</p>
<p>松戸市立博物館は、千駄堀エリアの文化環境や自然環境を生かし、周辺施設との連携を強化し、市民のための文化交流拠点をつくりあげます。</p>	
<p style="text-align: center;">外部評価コメント</p>	
<p>・市内文化財の調査が行われていること、戸定歴史館と連携が行われていることがわかった。情報発信が、どのように、どの程度できているのかが、わかるとよかった。</p> <p>・令和6年度の6年生が、江戸末期の学習の中で戸定邸についてタブレットを使って意欲的に学習していた。今後もデジタルコンテンツを充実していただけるとよい。</p> <p>・戸定歴史館との連携はとても良い。市内の実地調査などの結果として、その活用法がはっきり見えてこないため、今後どのようにしていくのか分かれると良い。</p> <p>・松戸市民の博物館であることを念頭に松戸の歴史と市民への拡充に取り組んでいただいた。とくにいわゆる古代からの歴史にこだわらず、近隣周辺施設との提携と協力や地元歴史グループなどとも協力して新たな松戸の魅力を市民に浸透を図り成果を上げている。</p> <p>・民俗資料、歴史資料等の実査が行われたようだが、それらをどのようにデジタルコンテンツに組み込んでいくのかが未詳。職務分担がおこなわれていないということなので、今後数年の調査計画に対して、調査に十分な時間を割くことができるようにしてもらいたい。</p>	

・「広域的な文化交流拠点の形成」においては、市内文化財の情報収集と調査を着実に進めた。旧大谷口村の实地踏査や各神社の民俗調査を積極的に実施し、その成果は館蔵資料展で発表され、地域への貢献を具体的に示した。また、戸定歴史館との連携では、開館以来初の連携特別展に向けた共同準備が進められ、情報共有も活発に行われた。さらに、地域連携の観点から、聖徳大学短期大学部や市内在住の木工アーティストとのコラボイベントも計画された。これは文化交流拠点形成に向けた重要な一歩となる。一方、担当者の調査時間確保や調査成果のリニューアル展示への反映が今後の課題となる。

・博物館が「松戸市文化財保存活用地域計画」における拠点施設となっていることが、現状では十分に考慮されていない。第1次中期計画の総括にむけて、この点を再確認し今後の事業目標を設定すべきである。

・継続的に歴史資料の所在調査に当たっている点、民俗調査の着手など、目標の実現に一定の成果を上げた点は評価できる。一方、戸定歴史館をはじめ周辺施設との連携には、さらに取り組みを強める必要があろう。

・昨年度は、市内文化財の情報発信のために实地調査・歴史資料・民俗資料の所在調査等を精力的にこなされてこられた様思う。市民のための文化交流拠点としての位置付けの方法でよいと思うが、観光拠点としての位置付けを考えた時に、その対象もあくまで市民とお考えか？もっと広範囲に関東圏の人々、更にはインバウンドも対象にするとした場合、この調査結果をどのように生かしていけるのかが大きな課題だと思われる。

それによって、今後の方法論も変わってくる。私の職場では、インバウンドも大きなターゲットにしているため、昨年度は旅行者との商談会に積極的に参加した。そこでの状況を踏まえて、年度内にタイ語のパンフレットを作成し旅行者に配布したところ4月からタイ人観光客がすごく増えている。また、千葉県立博物館は、国立歴史民俗博物館と連携協定を結び、県立各館が歴博と様々な連携事業を始めた。将来的には、オール県立館と歴博との展示事業等も模索し始めた。そのような地域連携はブランド力を高めるために大切なので、その点の強化にも力を入れていただきたいと思う。

事業目標-3 ターゲット戦略 新しいファン層の獲得	総合評価 B
---------------------------	--------

松戸市立博物館は、家族で楽しめて集える博物館をめざし、新規利用者の開拓に努め、共に博物館を盛りあげていく仲間づくりを推し進めます。

外部評価コメント

・家族で楽しめるプログラムの開発に積極的に取り組む姿勢はとてもよい。また、その流れを踏まえて楽しみながら松戸の歴史を学べる体験シートの開発に取り組む姿勢もとても評価できる。また、団体との連携にも力を入れたようで6年度は、目標値を上回るくらいつながりできたよう。今後、そのつながりをうまく生かして集客増やイベントの開催につなげられればよい。高校との連携については、インターンの受け入れだけでなく、高校生によるミュージアムコンサートの開催など、もう少し、ソフトな面での連携も考えていただきたい。ところで、学校教員とのつながりはどうでしょうか。その点は気になった。

・体験アイテムやキットを使い、児童や大人が楽しく学ぶ工夫が見られ、良かった。高校生・大学生のインターンの受け入れで出てきた率直な意見や感想を今後の活動に生かしていただきたい。学校で開催している家庭教育学級にも、松戸の歴史に興味がある方がいるので、児童に対しての出前授業の他に、保護者向けの講義等をお願いしたい。

・新たなファンを獲得するために努力をされていることがわかった。家族・若い世代をターゲットにしていることがわかる。しかし新たなファンを獲得するためには、交通の利便性を向上させることが不可欠なのではないか。

・体験型プログラムは、新しいファンを取り込むのに有用で、評価できる。高校生・大学生のインターンについては、情報発信次第でもっと増えると思う。

・家族ぐるみで博物館ファンとなってもらい、家庭内にも入り込んで博物館の価値(面白さ)を理解してもらうことを念頭に組みこんでいただいた。令和6年度に限らずこの数年間は企画展示会場でのまろもろの体験コーナー、こどもミュージアムやプレイルームでの体験教室、竪穴住居での宿泊体験などを積極化して親子で一緒に楽しむ博物館に大きく変身している。

・高校生や大学生向けのプログラムについて、もう少し企画するべきだと思う。インターンや博物館実習については、どちらかというと博物館側からすると受動的なものになりがち。プログラムの考案が必至であると考え。博物館として能動的な企画の提案が必要であろう。特定の大学との連携も非常に重要となるので、相手先を開拓することも必要ではないか。

・「新しいファン層の獲得」では、こどもミュージアムの体験プログラム開発と学校教育施設との連携を強化した。約50種の体験アイテム・キットが考案され、企画展「異形土器」関連で3Dプリンタの活用プログラムも実施した。またプレイルームイベントは恒常化し、年間9講座で1,849人の参加があり、子どもたちに学びの機会を幅広く提供した。学校教育施設との連携では、高校生のインターンシップを新規で受け入れ、計9名の生徒が博物館業務を体験し大きな成果を上げた。今後は、体験アイテム・キット利用者のフィードバック反映や大学生向けプログラムの具体化、インターン受け入れの強化が課題となる。

・「地域総がかり」を前提に策定された「松戸市文化財保存活用地域計画」には、市内のさまざまな歴史文化関係団体が記載されているが、「新規連携団体の開拓」「地域活動団体などへの支援活動および情報交換」という取

<p>組において、各団体との連携や検討が充分になされていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニューアル後の体験プログラムの開発という点では、事業目標1とも関わって、新技術の開発によって、一定の展望を得ることができたといえる。こども体験学習やプレイルームの取り組みも高く評価できる。こども(児童)向けの取り組みは充実しているが、一方で高校生・大学生をも取り込む取り組みにも、さらに意を用いることが必要か。なお、各種のニーズに応じた様々な講座・講演会等が展開されており、この点も十分に評価するものであるが、少し整理しても良いかとも感じる。 	
<p>事業目標-4 展示戦略 新たな展示空間の創設</p>	<p>総合評価 A</p>
<p>こどもも大人も松戸の歴史と文化を楽しく学ぶことができる「こどもミュージアム」を整備します。また、常設展示全体の充実も図ります。</p>	
<p>外部評価コメント</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・こどもミュージアムの整備に向けての体験キット・アイテムの検討については、充分時間を持って行ってほしい。私も体験キットを使うことがあるが、思ったより来館者のニーズに合っていなかったと思うことがある。また、こども向けの先進事例の視察を行うことはとても大切なことだと思うが、可能なら、一つ、二つ、美術館の事例も参考にされたらよいかも。また、常設展示のリニューアルにあたっては、インクルーシブの視点から、様々な団体からヒアリングを行ったことは、高く評価できる。 ・令和6年度、3年生の校外学習で「昔のくらし展」を参観したが、体験プログラムが豊富で、児童が主体的に学び、理解を深めることができた。展示場所も児童にとって、ちょうどよい空間であった。数名は、その後家族で再訪問していた。今後も楽しく学べる体験プログラムの開発をお願いする。 ・展示計画が進行しているということがよいと思う。計画が明確であることが今後の進捗に大きな影響を与える。まだ、計画段階なのでこれからの取組に期待する。よりよい展示に向かう計画が実現に移せるよう期待する。 ・こどもミュージアムの整備は、新たなファン層の獲得につながり、ワクワクする博物館は魅力的なので、進めていただきたい。ミュージアムシアターとキッズシアターの平均利用者数が少ないので、こちらの内容も要検討だと思う。 ・本件の最終結果は近年検討してきた館のリニューアル事業の完成を待つこととなるが、近年繰り返し取り組んできたこども体験教室等で十分な経験を積んできているので、「成功間違いなし」との確信が感じられる。大きな期待をもって待ちたい。 ・こどもミュージアムの計画はぜひ進めていただきたい。他館の実施状況を視察してきたということなので、それらの良いところを積極的に取り入れていただきたい。展示計画が策定されたので、それらの空間・展示デザインを進めてほしい。 ・「新たな展示空間の創設」においては、外部の有識者や先進事例を踏まえ、博物館展示計画(常設・こどもミュージアム)の策定を予定通りに完了した。ワーキンググループによる約50種類の体験キット・アイテムの検討や、沖縄県立博物館・美術館など先進事例の視察を通じて、内容の具体化が進んだ。また常設展示のリニューアルでは、リニューアル懇談会の継続開催に加え、松戸市ろうあ協会や松戸手をつなぐ育成会など多様な市内団体へのヒアリングを実施し、インクルーシブデザインの視点を取り入れた空間創出の検討を進めた。今後の課題は、体験キット・アイテムの試行による検証、こどもミュージアム運営体制の検討、常設展示室の資料選定と空間デザインの具体的な検討、各種ヒアリング内容の設計への反映。 ・外部有識者からの意見聴取や先進事例の視察・検討に加えて、市内の関係団体から包括的な意見聴取が実施できたことは高く評価できる。 ・常設展示およびこどもミュージアムの展示計画が予定通り策定できたことは、大いに評価できる。体験キットやアイテムの開発にも取り組み、今後のリニューアルに向けての基礎が整備されたことは重要である。 	
<p>事業目標-5 施設戦略 施設の長寿命化</p>	<p>総合評価 B</p>
<p>多様な利用者に対応できるよう施設の充実を図るとともに、今後も持続可能な博物館活動を展開できるように施設・設備の長寿命化を図ります。</p>	
<p>外部評価コメント</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・これからは、すべての人が、歴史や文化を楽しく学び生涯学習につながるよう、体験活動や ICT機器の充実した施設になることを期待している。 ・事業目標4でも触れられているが、インクルーシブの視点は重要だと思う。誰もが利用できる博物館であるよう期待する。 ・利用者の多様性に対応できる博物館リニューアルを期待する。修繕箇所の把握、改善など課題があると思うが、リニューアルのタイミングで良いものになるよう願う。 	

・多様な利用者への対応は高齢化社会というなかなか難しい社会情勢が重なり、来館者のための施設であるとともに来館できない市民への博物館であることも重要なことである。従来から指摘されている「交通の便」も解決策が見えず今後への課題として残っている。

・今後の展示や解説に関する基礎的な調査、ヒアリングなどがおこなわれており、これらの結果をリニューアルに生かしていったほしい。老朽化対策については、予算との兼ね合いもあるだろうが、劣化箇所の把握をしていったほしい。

・「施設の長寿命化」では、インクルーシブデザインのリニューアル展示計画への反映や老朽化の対策を重点的に進めた。博物館と展示業者によるインクルーシブ対応の現地確認調査を実施し、多様な利用者の視認性や利便性の向上を検討した。また、松戸市ろうあ協会など関係団体へのヒアリングを行い、インクルーシブデザインの導入に向けた知見を深めた。そのほか、施設の老朽化対策としては、ハロン消火設備のガス交換や第2収蔵庫の除湿器修繕を完了した。さらに、空調設備の改修工事も発注済み。これらの取り組みは資料保存に不可欠であり、高く評価できる。一方、課内全体でのインクルーシブデザインに関する意識と知識の共有や、施設全体の総合的な劣化度調査の実施が今後の課題となる。

・施設の充実や施設・設備の長寿命化についての情報収集は充分に行われていると評価する。なお、これらに関する情報や知識を館内で共有し、活用していくためには、今後の中期計画の検討事項として保存科学担当学芸員を配置すること加えていくことも必要ではないかと思料する。

・今日、インクルーシブデザインの導入は必須の条件といえるのであり、各種の検討を実施したことは重要な意味を持つ。今後、リニューアルに当たって具体的に反映させることが求められる。老朽化施設の改修も急務であり、対症療法もちろん必要であるが、全体的な把握の下での処方箋も必要となろう。

・インクルーシブデザインの導入は、これからの時代、とても大切な視点の一つ。

私も友人に触地図の研究者がいて、実際に友人の話聞き、実物を見てこんな表現方法があるのかと驚いた。また、私のいた館でも筑波大学との連携で視覚障害者向けの展示会を開催したが、多くの方が実際に作品に触れ、感触を楽しんでおられた。松戸市立博物館も、そのような方々でも学べる施設にしていきたい。また、施設の長寿命化はとても大切な問題なので、更新や改修するだけでなく、定期的きちんとメンテナンスしてほしい。アクセスについては、都市部でさえ、バスの本数が減らされ始めているので、徒歩での案内板等の充実を図るべきである。